

第 29 回 後漢の時代

1 漢の再興

- ・ 23 年、王莽が建国した（ ）は、（ ）によって滅んだ。
→混乱をおさめたのが、前漢の劉氏の一族である劉秀であった。

☆（ ）(25～220 年)

都…（ ）

◆（ ）(在位 25～57 年)

- ・ 25 年、光武帝として即位して漢を再興した（後漢）。



光武帝(劉秀)

あまり日本では知名度がないが、中国史上最も優秀な皇帝のひとりである。漢の劉邦とは違い、統一後も部下を大事にした。

2 後漢と諸外国との関係

- ・ 中国と他の国々との交流も盛んとなり、中国の皇帝が周辺諸国の君主と形式的な君臣関係を結ぶことで、（ ）が成立した。
→漢代に原型ができ、後の南北朝時代に確立されていった。



漢委奴国王印
金印で、江戸時代に志賀島(福岡県)というところで発見された。

- ・ 57 年、東方の（ ）の奴国王から、朝貢のための使者が送られてきた。
→光武帝はこれを受け入れ、倭の使者に（ ）を与えた。



班超
ミスター西域都護

- ・ 北方の（ ）は、前漢の攻撃により東西に分裂していた。
→後漢の攻撃によってさらに南北に分裂した。
→北匈奴の一部は西方に逃れて、（ ）となったとされる。
- ・ 91 年、（ ）を西域都護に任命し、西域の広い地域を支配した。
→97 年、部下の（ ）を（ ）に派遣した。

- ・ 166 年、ベトナム中部の（ ）に（ ）の使者が来た。
※大秦王安敦とは（ ）のこととされる。
- ・ また後漢のベトナム支配に対しては、徴姉妹の反乱が起こった。



3 後漢の文化

- () …前漢の歴史書である『 』を紀伝体で書いた。
- () …儒学者で、五経などの注釈を行う () を大成した。
- 張陵 …道教の一派である () を創始した。
- () …それまでの () ・ () ・帛 (絹布) にかわり、 () を発明 (改良) した。
- 張衡 …天球儀や地震感知器を発明した。



班固

西域都護を務めた班超は、班固の実の弟である。父も妹も歴史家だが、弟だけが軍人の道に進んだ。これ以降、次の王朝が前の王朝の歴史書を書くことが習慣となった、



蔡倫

身分は宦官である。世界史に最も大きな影響を与えた人のひとりだろう。ただし紙がすぐに普及したわけではなく、唐や宋の時代を経て段階的に普及していった。



- 漢字は、秦代に篆書が整理されていたが、漢代になると隸書、草書、楷書、行書などが生み出された。
- 『説文解字』という漢字の成り立ちや意味を明らかにする書物も編纂された。
- インドから西域を経由して () が伝来したが、一般には普及しなかった。

4 後漢の崩壊と中国の分裂

- 地方では豪族が力を伸ばし、さらに郷挙里選を利用して、中央にも進出した。
- 中央では、 () と官僚 (役人) が政治の主導権をめぐって対立し、政治は激しく乱れた。

- 166 年、宦官勢力が官僚を弾圧した () がおこった。
- 政治の実権を宦官がにぎり、政治はさらに乱れた。
- 184 年、道教系の宗教結社 () の () が、 () をおこした。
- 大反乱となり、後漢は各地の豪族を頼ってなんとか鎮圧した。
- 189 年、豪族の董卓が皇帝を殺害し、献帝を皇帝にすえて政治の実権をにぎった。



画像石

墓室の壁に絵を彫りつけたもので、後漢以降に流行した。神話や生活が描かれており、豪族らの生活を知る貴重な資料である。



黄巾の乱

アニメ『蒼天航路』より。黄色の頭巾を反乱の目印としたので、黄巾の乱と呼ばれる。『三国志』の壮大な物語はここから始まる。



董卓

後漢の衰退を決定的にした『三国志』最大の悪役。部下の呂布に殺された。いいキャラだが残念ながら入試にはほとんど出ない…。グフフ。



曹操

マンガ『蒼天航路』より。曹操は斬新な政策によって、またたくまに最大勢力となった。超世の傑。

- 中国各地では、呂布、袁紹、曹操、劉表、孫堅、劉備などの有力な豪族が、独立勢力を作って争っていた。
- なかでも後漢の献帝をあやつった () が、最大の勢力となった。